

「第2次北谷町観光振興計画の骨格案」 に対する意見募集

はじめに

北谷町では、これまで平成26年に策定した第1次北谷町観光振興計画に基づき観光施策の推進を図ってきおり、今後7年の北谷観光の振興に関する基本的な方向性を明らかにするため「第2次北谷町観光振興計画」を策定します。

北谷町観光振興計画策定委員会や同委員会作業部会（北谷町関係部課長及び係長）、並びに北谷町観光振興計画審議会（学識経験者・観光関連事業者・町内観光関連団体・町民等）において審議を行い、計画案の策定に取り組んでおります。

については、『第2次北谷町観光振興計画の骨格案』に対し、町民等の皆様からのご意見を募集します。

本意見募集の対象

- **本資料P3以降の「第2次北谷町観光振興計画の骨格案」**

参考として添付している計画案は、本骨格案に基づいて策定されるものであり、本意見募集によりいただいたご意見等を踏まえ、事務局にて一定の整理を行います。そのため、本意見募集の対象外としています。

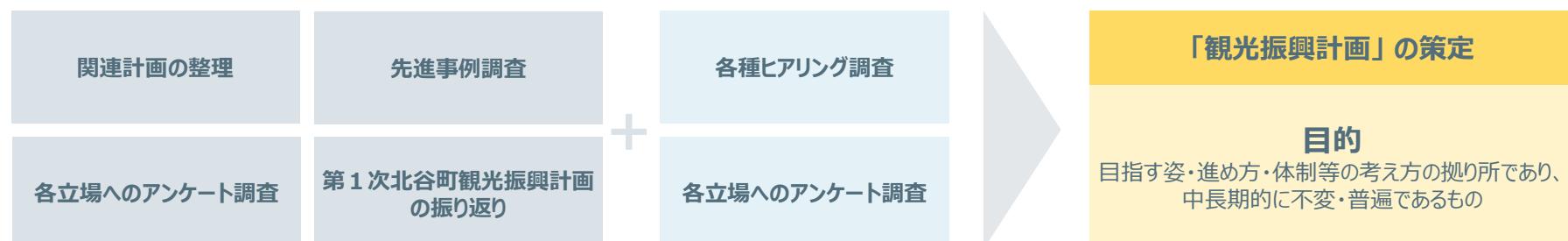
昨年度の取り組み

第2次北谷町観光振興計画を策定するにあたり、昨年度（令和6年度）は、第1次北谷町観光振興計画の評価検証業務を以下のとおり行いました。

関連計画の整理 国/県 観光計画 北谷町総合計画	先進事例調査	各立場へのアンケート調査 来訪者／地域住民／事業者	第1次北谷町観光振興計画 の振り返り
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本町の全体の方向性をキャッチアップ ✓ 国や県などの計画で本町も取り入れるべき要素の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 先進事例のキャッチアップ JSTS-D（観光庁：日本版持続可能な観光ガイドライン）、デジタルマーケティングの推進、観光振興計画と宿泊税の運用管理など 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 北谷観光を取り巻く環境の理解 来訪者の意識、地域住民の意識、事業者の意識 ✓ 各者のニーズ把握 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 計画のあり方の振り返り ✓ 各事業の棚卸と振り返り、状況の確認

今年度の取り組み

今年度は、昨年度の取り組みの「関連計画の整理」「先進事例調査」「各立場へのアンケート調査」「第1次北谷町観光振興計画の振り返り」を基に、「各種ヒアリング調査」と改めて「各立場へのアンケート調査」を実施し、計画の策定に取り組んでいます。



※各種ヒアリング調査については、一般の北谷町民の皆さま、自治会長の皆さま、町内の観光関連団体の皆さまへのヒアリングを実施しております。
一般町民の皆さまは北谷町公式ホームページで募集した11名の方にご参加いただき、3チームに分けて2時間ずつ計6時間のヒアリング調査を行いました。

第2次北谷町観光振興計画の骨格案

観光振興の意義

参考資料P2

観光振興は、経済・社会・地域・環境の各側面において地域の持続的発展を支えるものです。経済面では県内総生産や雇用を支える基幹産業として大きな役割を果たし、社会・文化面では伝統や歴史の継承と国際交流を促進します。さらに地域振興においてはインフラ整備や新たな産業創出を通じて住民生活の向上に寄与し、環境面では自然や文化資源を守りつつ観光と共生する持続可能な仕組みを構築します。

観光振興は、地域社会の誇りと魅力を高め、未来へつなげる総合的な基盤であるといえます。

地域経済の発展

地域経済と雇用を支え、持続的発展の基盤となる

地域の社会的・文化的な発展

地域文化の継承と国際交流を促し社会発展に寄与

地域の振興・活性化

地域資源を活用し生活向上と経済発展を促進

持続可能性への貢献

自然と文化を守り持続可能な地域発展を支える

計画策定の背景

参考資料P4

沖縄県中部に位置する北谷町は、美浜アメリカンビレッジを中心に、リゾートホテル、ショッピング、飲食、エンターテインメントが集積する観光地として発展してきました。また、サンセットビーチやアラハビーチなどの自然環境にも恵まれ、国内外から多くの観光客が訪れています。

一方で、観光需要の増加に伴う交通渋滞や環境負荷、住民生活への影響といった課題も顕在化しており、持続可能な観光のあり方が問われています。さらに、観光ニーズの多様化やデジタル化の進展、新型感染症による観光形態の変化など外部環境も大きく変化しており、従来型の観光振興だけでは十分に対応できない状況にあります。このような背景から、北谷町では、観光を核のひとつとした地域の持続的発展が不可欠な状況にあります。

計画策定の目的

参考資料P4

経済成長と文化・環境保全、そして住民生活の調和を実現するための包括的な指針であり、町の魅力を国内外に発信しつつ持続可能な未来を切り拓くことを目的とします。

計画期間

参考資料P5

本計画の期間は、北谷町全体の方針と観光振興を足並みそろえて進めることを考慮し、令和14（2032）年度までの7年間とします。これは、現在の第六次北谷町総合計画の次期計画が令和14（2032）年度から開始となる予定であり、次期観光振興計画は、この次期総合計画をもとに令和14（2032）年度中に策定することを見込んだものです。

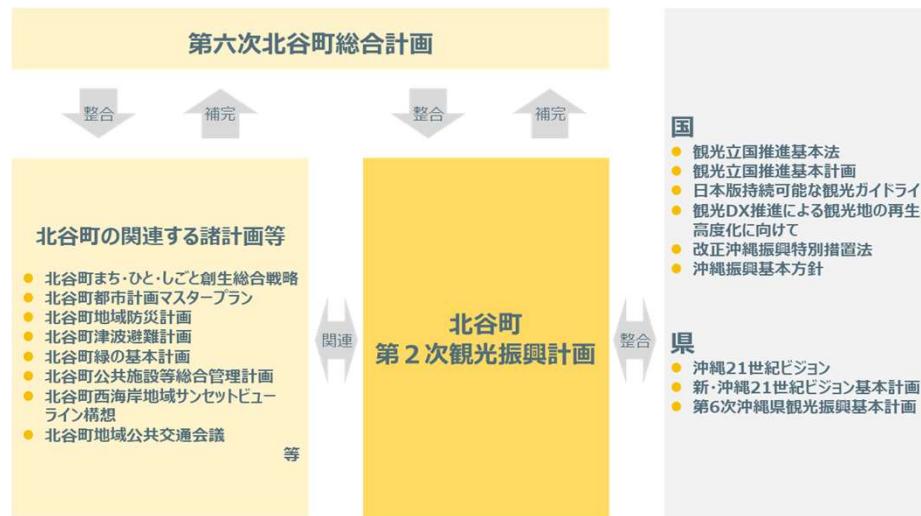
●令和8（2026）年度～令和14（2032）年度（7年間）

計画の位置づけ

参考資料P4

本計画は、上位計画となる第六次北谷町総合計画に基づく『観光』施策を具体化するための部門計画として位置づけ、国の観光立国推進基本法に基づく観光立国推進基本計画や、日本版持続可能な観光ガイドライン、沖縄県の沖縄21世紀ビジョンや第6次沖縄県観光振興基本計画との整合を図ります。

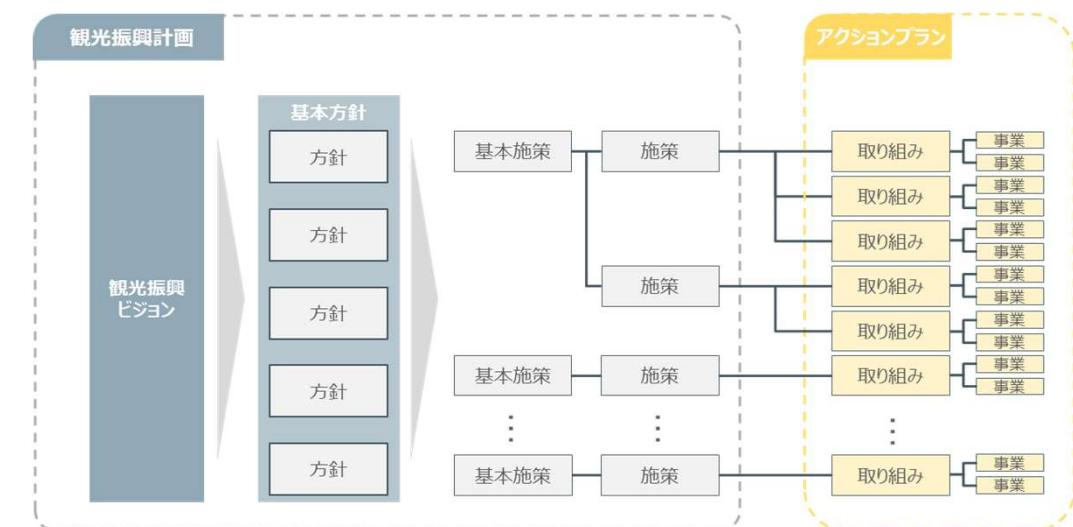
また、本町の北谷町まち・ひと・しごと創生総合戦略や北谷町都市計画マスターplanなど、関連する諸計画との整合を図るものとします。



計画の構成

参考資料P6

本計画では、中長期的に変わらない普遍的な目的や方針を明確にする「計画」と、急速に変化する社会情勢や観光市場、地域内部の状況変化などに柔軟に対応しつつ、計画で掲げた「目的」を達成するための具体的な手段を示す「アクションプラン」を分けて策定しています。



北谷町の観光の課題

参考資料P23

国・県の動向、町の現状、アンケート調査・ヒヤリング調査の結果を複合的に整理し抽出した北谷町の観光の課題を、「来訪者」、「観光事業者」、「地域住民」、「自然・文化」、「安全・安心」の各観点で整理しています。第2次北谷町観光振興計画は、これらの課題を踏まえて策定しています。



基本理念

参考資料P26

これまでの観光振興計画は、本町に限らず、来訪者や観光事業者を中心に据えたものが多く、地域住民やその土地ならではの自然・文化への配慮が十分になされていないケースが見受けられました。その結果、観光客の急増による地域住民の生活環境の悪化や、自然・文化資源の損失といった、いわゆる「オーバーツーリズム」による観光公害が社会問題として顕在化しています。

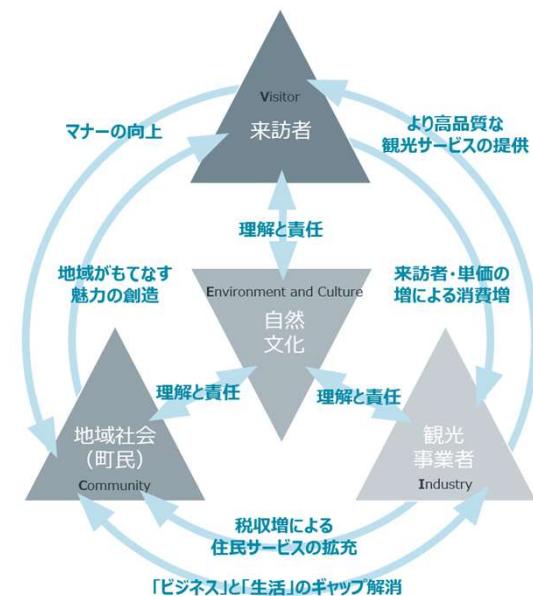
本来、観光振興は一部の利益追求にとどまるものではなく、観光に関わる全ての主体がそれぞれの立場や役割を理解し合い、互いにメリットを享受できる形で推進されるべきです。そこで本計画では、観光地マネジメントの国際的なフレームワークであるVICEモデル（来訪者：Visitor、観光事業者：Industry、地域住民：Community、自然・文化：Environment and Culture）の4つの視点を軸とし、それぞれの役割と関係性を重視することとしました。

例えば、観光事業者が質の高いサービスを提供することで、来訪者の満足度や単価が向上し事業者自身の収益増加につながります。一方、来訪者が地域のルールやマナーを守り、その土地の文化や暮らしに敬意を払うことで、地域住民も安心して来訪者を受け入れ、心からのもてなしが可能となります。観光事業が活性化することで税収が増加し、これが地域の公共サービスや住民福祉の向上に役立つことで、ビジネスと住民生活の両立が実現されます。

このような好循環を生み出すために、第2次北谷町観光振興計画ではVICEモデルの4つの観点を柱とし、誰もが恩恵を感じられる観光のあり方を目指してまいります。

行政が推進する「観光振興」の形

図中の「税収増による住民サービスの拡充」については、観光振興による経済活性化や雇用増による税収増を想定しています。



海とまちが交わり、暮らしと旅が共鳴するタウンリゾート

～住むほどに旅になる、旅するほどに好きになる、潮騒と夕陽がこころをつつみこむまちを目指して～

私たちのビジョンは、海の恵みと街の機能を一つの日常としてつなぎ、その中で暮らし（住民）と旅（来訪者）が互いの価値を高め合うまちをつくることです。副題の「住むほどに旅になる、旅するほどに好きになる」は、その循環の約束を具体化した表現です。住む人には毎日に発見と誇りを、訪れる人には関わりと再訪の動機を生み、だれもが潮騒と夕陽を共有財として愛せる状態を目指します。

海とまちが交わるとは 海の自然（夕陽、潮騒、海風）と、街の機能（商業、文化、住まい、公共空間）がシームレスにつながり、歩いて心地よく回遊できること。海の時間が街を育て、街の多様性が海辺を豊かにする—その相互作用を、私たちの手でデザインし続けることです。

暮らしと旅が共鳴するとは 住民の誇りと来訪者の愛着が響き合い、再訪・長期滞在・関係人口化へ広がること。「住むほどに旅になる」、「旅するほどに好きになる」という循環を、日々の気づきと優しい実践で育っていくことです。

本計画は、VICEモデル（来訪者、観光事業者、地域住民、自然・文化）の視点で四者がともに良くなる観光地経営を進めます。北谷には、そのための確かな土台があります。地域の声からは、古くから盛んな伝統芸能への誇り、日々の景色や暮らしへの愛着、まちを良くしていきたいという前向きな気持ちが感じられました。あわせて、北谷は“挑戦する町”。これまで民間事業者の皆さまが地域の理解を得ながら新しい発想と実行力で、海と街を生かした滞在のかたちや、時間帯・空間の使い方、多文化に開かれた受け入れのあり方を切り拓き、北谷ならではの体験価値を育ててきました。私たちは、こうした歩みに敬意をもち、地域・事業者・行政が並走して、次の一步を着実に形にしていきます。

北谷町の観光振興に係る基本方針

参考資料P29

本来、観光振興は一部の利益追求にとどまるものではなく、観光に関わる全ての主体がそれぞれの立場や役割を理解し合い、互いにメリットを享受できる形で推進されるべきです。そこで本計画では、観光地マネジメントの国際的なフレームワークであるVICEモデル（来訪者：Visitor、観光事業者：Industry、地域住民：Community、自然・文化：Environment and Culture）の4つの視点を軸とし、それぞれの役割と関係性を重視することとしました。観光地マネジメント：観光地全体を持続的に運営・改善する取り組み。資源の保全、来訪者の受け入れ調整、データ活用、住民・事業者との協働などが含まれます。

VICEモデル：国連世界観光機関（UNWTO）が提示した観光地マネジメントに必要な要素。Visitor（観光客）、Industry（事業者）、Community（地域）、Environment and Culture（自然と文化）の4つの要素でそれぞれの頭文字をとったものです。

計画の全体像

参考資料P32

海とまちが交わり、暮らしが旅が共鳴するタウンリゾート

～住むほどに旅になる、旅するほどに好きになる、潮騒と夕陽がこころをつつみこむまちを目指して～

来訪意欲・満足度の向上 (来訪者)

北谷町ならではの多彩な魅力や体験が広く発信され、多くの人々が訪れたと感じる観光地となるとともに、来訪者が心から満足し、再び訪れたくなるまちを実現します。

継続的・発展的な観光産業の推進 (観光事業者)

観光事業者と、そこで働く観光従事者の双方が持続的な成長と働きかけを実感できる環境が整い、地域経済を支える中核産業として発展することで、雇用の創出や新たなビジネスチャンスが生まれる活力あるまちを目指します。

基本方針

町民の観光理解・ホスピタリティの向上 (町民)

観光による地域への影響を適切に調整し、町民の暮らしと観光がバランスよく共存できる環境を整えます。そのうえで、町民一人ひとりが観光への理解と誇りを持ち、温かいもてなしの心で来訪者を迎えることで、地域全体が一体となって観光を支えるまちを目指します。

自然・景観・文化資源の保全と活用の推進 (自然・文化)

豊かな自然や美しい景観、地域固有の文化資源が大切に守られ、次世代に継承されつつ、観光資源としても魅力的に活用される持続可能なまちを目指します。

安全・安心・快適な観光地地域づくりの推進 (安全・安心)

誰もが安心して快適に過ごせる環境が整い、災害やトラブルへの対応体制も充実した、安心して訪れることができるまちを実現します。

基本施策

施策

重点施策

主な取り組みの想定

A マーケティングに基づく町内外への情報発信

- 1 情報発信の考え方の整理や観光統計データの収集・分析
- 2 効果的なタイミング・手法による情報発信
- 3 町民の理解の醸成

- 情報発信の考え方の整理
- 観光情報センターを拠点とした観光情報の発信強化
- 町民向け情報発信の充実

B 観光コンテンツの拡充

- 4 来訪目的となる景観づくりと維持
- 5 地域特性を活かした体験型アクティビティの充実
- 6 食のPRや案内の強化及び食を通じた観光の魅力向上
- 7 地域特産品やお土産の開発・販路拡大の支援
- 8 北谷ならではの自然・文化の保護と積極的な活用
- 9 新たな来訪動機の創出

- 観光・商業地の道路空間の賑わい創出のための環境整備
- ダイビング、フィッシング、クルージング等、海を活かしたマリンスポーツ・マリンアクティビティの充実に向けた環境整備
- グルメ案内情報の充実
- 地産品のプロモーション、販売支援
- 地域の誇る伝統芸能（エイサー等）・文化の活用
- 沖縄県と連携したスポーツ合宿等の誘致促進

C 観光人材の充実

- 10 観光振興やおもてなしに貢献する人材の育成

- 観光事業者等を対象とした観光人材の育成

D 施設・インフラの拡充

- 11 各種施設の拡充・多様化

- 北谷公園（運動公園）の施設再整備の検討

E 来訪・町内移動の交通の充実

- 12 北谷への各種移動手段の周知促進及び駐車場の最適化
- 13 来訪者に向けた町内移動利便性の向上
- 14 沖縄来訪における交通結節点機能の強化

- 美浜駐車場の機能拡充検討
- 町内移動手段の拡充
- 観光2次交通結節点の整備に向けた沖縄県との連携

F 自然と文化の保護保全

- 15 無形の文化資源の保護保全と継承
- 16 自然・有形の文化財の保護保全と維持管理

- エイサー、獅子舞等の伝統芸能の観光コンテンツ化による伝統の維持継続
- 有形文化財の保存整備の推進および活用

G 地域との共生

- 17 ルール・マナーの周知と遵守の徹底
- 18 観光産業の発展と住民生活の品質の両立
- 19 町民とともに地域一体となった取り組みの推進

- 観光客へのルール・マナー啓発
- 町民に対する観光サービスの利活用検討
- 各種事業の改良や新規事業検討に係る町民との意見交換

H 安全・安心な観光地運営

- 20 観光危機管理体制の構築
- 21 治安の維持・向上
- 22 多様な人々が安心して訪れることができる環境の整備

- 観光危機への対応
- 行政、町民、事業者、警察等が協働したまちの安全性確保
- ユニバーサルツーリズムの推進

重点施策

重点施策は、貢献度、影響範囲、実現性、緊急性、波及効果、政策・想い、満足度の7つの観点から選定したものです。